

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600564		
法人名	有限会社セイコー		
事業所名	グループホームあすか	ユニット名	A棟・B棟
所在地	長崎県五島市吉田町740番地		
自己評価作成日	平成25年12月27日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成26年2月12日	評価確定日	平成26年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人に担当者を付け、細かいケアが出来るよう心掛けています。特にベッド上で長時間過ごされる方には、褥創や栄養状態に注意し、ご家族との連絡を密にしている。また職員全員が情報を共有し、スタッフノートを活用しながら統一したケアに取り組んでいる。スタッフノートも8冊目になった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームあすか”は25年度に開設10年を迎えた。職員の入れ替わりを経験しながらも、職員の結束は強くなっており、利用者の方に“とことん向き合うケア”を続けている。寝たきりの状態だった方も、“絶対に歩ける”と言う職員の強い信念で、トイレでの排泄が可能になった方もおられる。信仰も大切にされており、「ミサに行きたい」と言う要望の方には、家族と一緒に教会に行かれたり、神父様にホームに来て頂く機会も作られている。24年度までは、同じ系列の施設で敬老会を開催していたが、25年度は“全員の利用者の参加”と“地域の方との触れ合い”を目的に、地元の公民館をお借りして開催する事ができた。今後も職員個々のアイデアを結集し、“あんしんの家 すてきな出会い かていの雰囲気(あすか)”を作り続けていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定例会などで、理念について確認し合っている。	理念にある“あんしんの家”となるように、入居時に、自宅と同じように過ごせるように職員も一緒に買い物に行き、家具などを購入した方もおられる。また、自宅から仏壇を運び、毎朝、水やご飯のお供えをお手伝いするなど、“あんしん”して過ごせる取り組みが続けられている。	理念の3つ目にある“かていの雰囲気”とは何かを検討している。言葉遣いの振り返りも行われ、今後も、方言の使い方や声の大きさ、ご本人の呼び名なども含め、職員全員で検討していきたいと考えている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	以前より町内会に加入しており、地域の一人として夜間パトロールにも来て頂いている。	地域の方から野菜を頂いたり、近隣の家の棟上げにも参加し、利用者や餅拾いを楽しまれた。8月(夕方)に行われる納涼祭には、家族や老人会の方など、100人の方が参加して下さい、25年度は、敬老会も地元の公民館で行う事ができ、ボランティアの方が大正琴や腹話術などをして下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の人の理解や支援の方法などを理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーの方々とは顔なじみとなり、常に現状報告して助言やアドバイスを頂いている。	写真を使い、暮らしぶりを説明している。市の方から“地産地消”のご意見を頂き、買い物の際は五島産の物を購入している。ホームの敬老会で行われた腹話術の方を、老人会にも招待する機会が作られたり、ノなどの感染症情報も議題に盛り込み、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えており、また、地域包括との連携も施設長を通して行っている。	施設長や管理者が市の窓口を訪れ、ホームの活動内容を報告し、地域包括にも空き情報を伝えている。市の担当者の方に、ケアが困難になった方の相談も行き、ご本人にとって最適な施設の入所支援をして下さった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	なるべく施錠はしないよう心掛けている。利用者が興奮する兆しがある際は、興味のある事に気をひき、訴えに傾聴するよう職員間で話し合っている。	日々、利用者の気持ちに寄り添い、外出時も職員がさりげなく見守りをしている。ご本人の混乱に寄り添い、必要に応じて一緒に添い寝をする事もあり、ご本人からも「すまないね」と言う言葉が聞かれている。帰宅願望が強い時には、家族と電話で話す機会も作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議や日々の会話の中で、一人一人のケアに対して話し合い、充実したケアに努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している利用者があるため、職員会議などで話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、施設長や管理者が対応しており、重要事項説明書や契約書に沿って十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の苦情受付窓口を設け、市や国保連合会の窓口も玄関に掲示している。また、玄関に意見箱も設置している。	毎月“あすか便り”を家族に郵送し、面会時には職員から声かけしている。「ミサに行きたい」との事で、神父様がホームに来られ、お祈りをして下さったり、「ここで最期まで」と言う希望も伺いながら、治療方針なども話し合い、転院ぎりぎりまで、精神誠意のケアが行われた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や申し送りノートを活用し、反映させている。	職員同士のチームワークは良く、意見交換を重ね、利用者が全員参加できるように、敬老会を地元の公民館で行う事ができた。職員同士の役割分担も明確にし、行事や日々のケアに取り組まれている。ほぼ全員の職員が夜勤に入っており、情報交換も活発に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年4月より就業規則の改正があり、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地元で開催される研修には多くの職員が参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、定期的にケアプラン検討会へ参加したり、相互訪問等の活動をしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人一人の状況を把握し、変化がある際は本人の言葉に傾聴して理解し、どのような対応を求めているかを話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望等あれば受け入れる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が必要としている支援を話し合いの中で見極め、支援出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の雰囲気大切に、掃除・洗濯等一緒に出来るようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に家族を招待し、共に楽しむ機会を設けている。また、利用者に変化がある際は、担当者が報告することで共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望がある際は希望に添える様になっている。	馴染みの人や場所を把握する取り組みを続けている。「髪を切りたい」との要望があり、ご本人の行きつけの美容室に送迎している。「教会に一度行きたい」との要望があり、家族の方が教会に連れて行って下さったり、神父様がホームに来て下さっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションをとれるよう職員が間に入って支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、利用者のアルバムを作成し、お渡しするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者に担当者を設けており、随時対応できるように努めている。	ご本人の願いや家族の意向の把握に努めている。各担当者が常に利用者の思いを把握し、申し送りノートで情報共有している。帰宅願望が強い方にも職員の寄り添いを続け、利用者個々の言葉に込められた真意が汲み取れるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活環境や生活歴などをアセスメントし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状の把握に努め、残存能力を生かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が利用者や家族と話し合いながら、現状に即したケアプランを作成するよう努めている。	担当職員が原案を作成し、全職員で検討が行われている。食欲低下がある方は、主治医にも相談し、訪問看護師から点滴を受けたり、職員もバイタルチェックを行い、食事量や水分量のチェックも行われた。介護計画の見直しは毎月の会議の時や、見直しの時期に応じて職員全員で行っている。	“時代劇が好き”など、ご本人のお好きな事も把握している。今後もアセスメントの中に、生活歴と共に、“できる事、できそうな事”も具体的に記録すると共に、ご本人と家族全員に、計画の相談・報告をしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記入し、申し送りノートを活用しながら実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況を把握し、柔軟な支援やサービスに努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の楽しみを支援出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方であっても入所前からのかかりつけ医への受診を継続し、家族と本人の意向を受け入れている。	毎月の往診を受けられ、通院時を含めて、利用者の状況を丁寧に報告しており、医師とは、いつでも相談できる関係ができています。受診結果に変化があった時は、電話で家族に報告しており、受診時に同席して下さる家族もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療ノートを作成し、看護師を含めた全職員が一人一人の状態を把握出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当者は、家族や病院との連絡を密にし早期退院に向けた支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期に向けた方針については検討中である。重症化の場合本人と家族の意向を尊重し、病院との連携を密にして、利用者が安心した生活を送れるよう支援している。	入居時に、「重度化が考えられる場合は、安楽に入浴できる他施設等に移って頂く場合がある」事を伝えている。管理者が看護師であり、24時間体制で連絡が取れる。看取りケアの経験はないが、「最期までここで」と言う方もおられ、ぎりぎりまでホームで対応させて頂いており、往診と訪問看護も利用している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当など各ユニットに掲示し、対応できるよう職員会議などで話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難路を確保し、防災設備の定期点検なども業者をお願いしている。協力体制については、運営推進会議にてお願い等している。	スプリンクラーを設置している。年に3回、昼夜想定で、利用者、消防設備会社の方と通報・避難・消火訓練が行われ、設備点検も行われている。23年度は消防団と訓練を行う事ができ、今後も訓練の声かけをしていく予定である。災害に備え、非常食(3日分)と水(7日分)を用意している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の理解力に合わせた声かけや誘導に心掛けている。	利用者の生活歴や性格等を把握し、個別に応じた声かけをしている。入浴時などは希望に応じて同姓介助が行われ、自分の身内を介助する気持ちでケアをしている。今後も言葉遣いや呼び方等の検討を続けていく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いに傾聴し、自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の意見を尊重し、希望にそって支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の能力に合わせて、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で採れた野菜や旬の食材をメニューに取り入れ、利用者が一緒に準備や食事、後片付けなど関わりが持てるよう支援している。	近くで採れる五島山菜や郷土料理の五島うどん、切干大根なども好評で、畑で採れた野菜(さつま芋、大根、小松菜、ネギなど)の下ごしらえや、食器洗いなども手伝って頂いている。ミサー食の方も彩りや盛り付けに配慮しており、時間差はあるが、職員も同じテーブルで食べられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取表を作成し、体調や状態を把握しながら支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや能力を把握し、トイレでの排泄にむけた支援をしている。	排泄が自立し、下着を使用している方もおられる。紙パンツやパッドの必要性を職員間で話し合い、寝たきりの状態だった方も、「絶対に歩ける」と言う職員の信念で、トイレでの排泄が可能になった方もおられる。安眠にも配慮しながら、夜間もポータブルでの排泄支援をしている方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操をして運動への働き掛けをしている。また、食事については消化の良い物を提供して水分補給をこまめにし、個々の排泄表を活用して便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回が基本であるが、利用者の希望に応じて対応している。	24時間いつでも入浴できる。お風呂好きな方も多く、湯船に浸かり、昔話や子供の話しなどをして下さっている。足浴をしながら洗身を行う等の配慮も行われ、できる所は洗って頂いている。季節に応じて柚子湯なども楽しませている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで一緒にテレビを観たり、疲れた時には居室で過ごされたりと一人一人が自分のペースで過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、効能や副作用を理解して利用者の状態を観察しながら変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、日々の生活の中の生きがい作りが出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日曜日にドライブに出かける様になっている。また、利用者の希望がある際は出来る範囲で対応している。	ホーム周辺の散歩を楽しまれ、花を摘んでこられている。気候の良い時はホームの庭に椅子を運び、日光浴や体操をしている。買い物の際は、利用者がカートを押して下さり、食材を選ばれている。菜の花や桜、コスモスの花見や浜辺のドライブを楽しまれ、家族と外食したり、自宅や教会にも行かれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人での金銭管理は遠慮していただいているが、希望があれば可能な範囲でホームの金庫にてお預かりするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけられるようにしている。まあ、手紙も希望がある際は援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごしていただくために、季節を感じていただけるよう季節の行事にちなんだしエアアウトをしている。	夏は“よしず”や風鈴を下げ、涼しさを感じて頂いている。加湿器も増やし、肌の乾燥対策も行われている。廊下には、ご本人の笑顔の写真が飾られ、季節に応じて利用者と壁飾りを作られている。リビングにはソファやテーブルが置かれ、会話を楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置しており気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具をそのまま設置している。	利用者と家族と相談し、仏壇や写真、遺影、マリア像などの大切な物と共に、寝具類や家具、テレビ、時計、鏡台などを置かれている。加湿器や湯たんぽも準備し、利用者の身体状況に合わせてベッドの手すりも活用している。今後も換気を心がけていく予定である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室にはてすりを設置し、安全面の配慮に気を配っている。		